

受託者 株式会社 一成

平成 23 年度
野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査
(九州中央山地地域)

報 告 書

平成 24 年 3 月

九 州 森 林 管 理 局

目 次

1. 調査概要	1
1.1 目的	1
1.2 実施期間	1
1.3 調査対象地域	2
1.4 調査項目	6
1.5 業務フロー	7
2. シカの生息状況等調査	8
2.1 生息状況調査	8
2.1.1 生息密度（糞粒）調査	8
2.1.2 スポットライトカウント法によるシカの生息状況調査	34
2.2 移動状況等調査	57
2.2.1 GPS テレメトリー法による調査分析	57
2.2.2 ビデオカメラ等による調査分析	109
2.3 シカの個体情報の収集	122
3. 森林環境等調査	131
3.1 調査地域	131
3.2 調査時期	131
3.3 調査方法	131
3.4 調査結果	135
3.5 まとめ	152
4. シカの捕獲手法の検討	156
4.1 平成 22 年度に実施した試行実験の継続	156
4.2 遠隔操作ゲートと捕獲柵を組み合わせた試行	171
4.3 大型誘導柵と捕獲柵を組み合わせた試行	177
4.4 誘引餌の種別効果の検証	195
4.5 安全で苦痛を与えない殺処分法の試行	200
5. 狩猟実態調査	203
6. 検討委員会の開催	208
7. シンポジウムの開催	210
8. 平成 23 年度調査の総括と課題への対応案	211
9. 個体数調整推進方策の検討	215
9.1 背景の整理	215
9.2 本事業での個体数調整推進方策の検討	221
10. 次年度以降の計画について	233
10.1 今後の課題	233
10.1.1 シカの個体数調整方策の評価・モニタリング手法の確立	233
10.1.2 シカの被害防止対策の効果検証	234
10.1.3 シカ個体数調整方策の検討～捕獲手法の確立～	234
10.2 次年度以降の計画案	237

【引用文献・参考文献】

1. 調査概要

1.1 目的

祖母山・傾山・大崩山系、九州中央山地、霧島山系の森林地域(以下「九州中央山地等地域」という。)においては、人工林でのシカによる剥皮被害等に加え、天然林においてはシカにより下層植生が全面的な食害を受けているなど深刻な状況にある。

天然林は、本来、動植物相の多様性に富んでいるが、近年、シカが高密度で生息していることにより、林内の草本類及び低木・草本類等の下層植生はほとんど食害を受けるとともに、中・上層木においても剥皮害やこれによる立ち枯れ等が目立ち、中には裸地化が進んでいる所もみられ、希少種の絶滅や種の多様性の観点から大きな問題となっている。

このことから、九州中央山地等地域の森林(人工林、天然林)において、シカによる被害状況やシカの生息・移動状況等を把握した上で、森林の生物多様性の保全や国土保全、水源涵養、木材生産機能等の確保の観点から、民有林とも連携しながら、森林生態系の保全のための植生の保護・再生方策、シカの個体数調整方策、森林環境保全・整備方策等を含むシカに関する総合的な対策を検討することを目的とした。

九州中央山地等地域の面積は広大であることから、霧島山地域をモデルケースとして、特に重点的に取り組むこととした。

1.2 実施期間

自:平成 23 年 6 月 28 日(火)

至:平成 24 年 3 月 9 日(金)

1.3 調査対象地域

九州中央山地等地域

調査対象地域は、原則として図 1、図 2-1 と図 2-2、図 2-3 に示す九州森林管理局管内の「熊本南部森林管理署」、「大分西部森林管理署」、「宮崎森林管理署都城支署」および「鹿児島森林管理署」管内国有林とした。

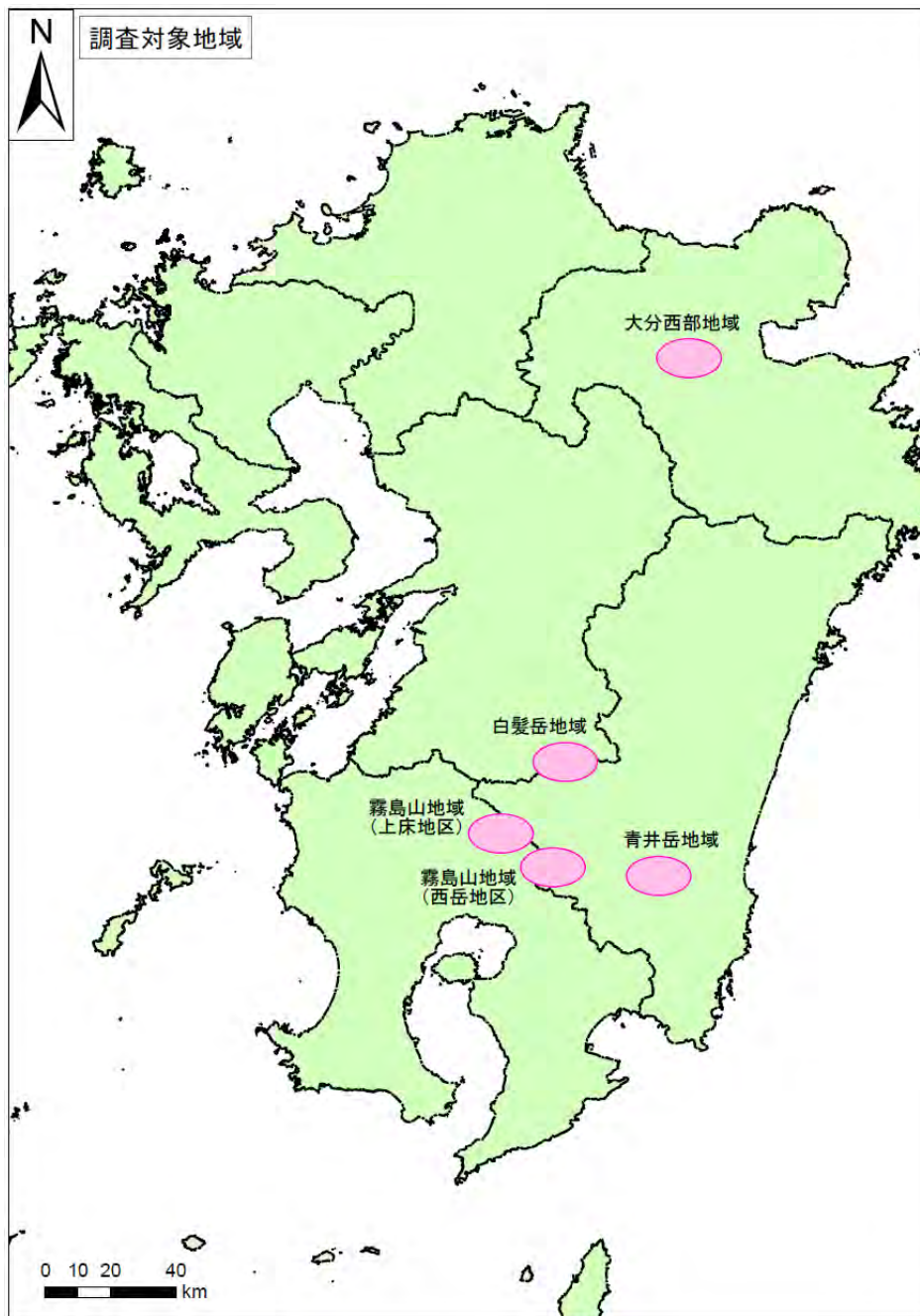
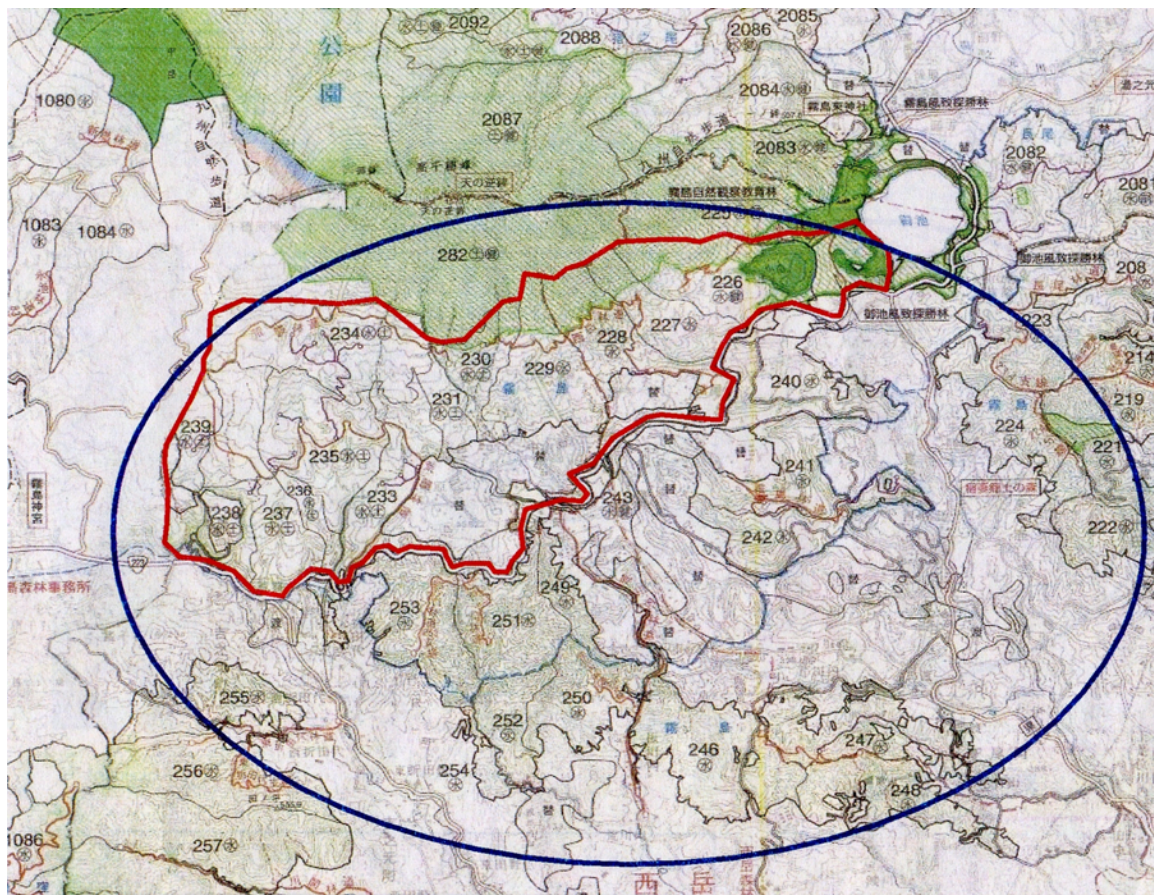
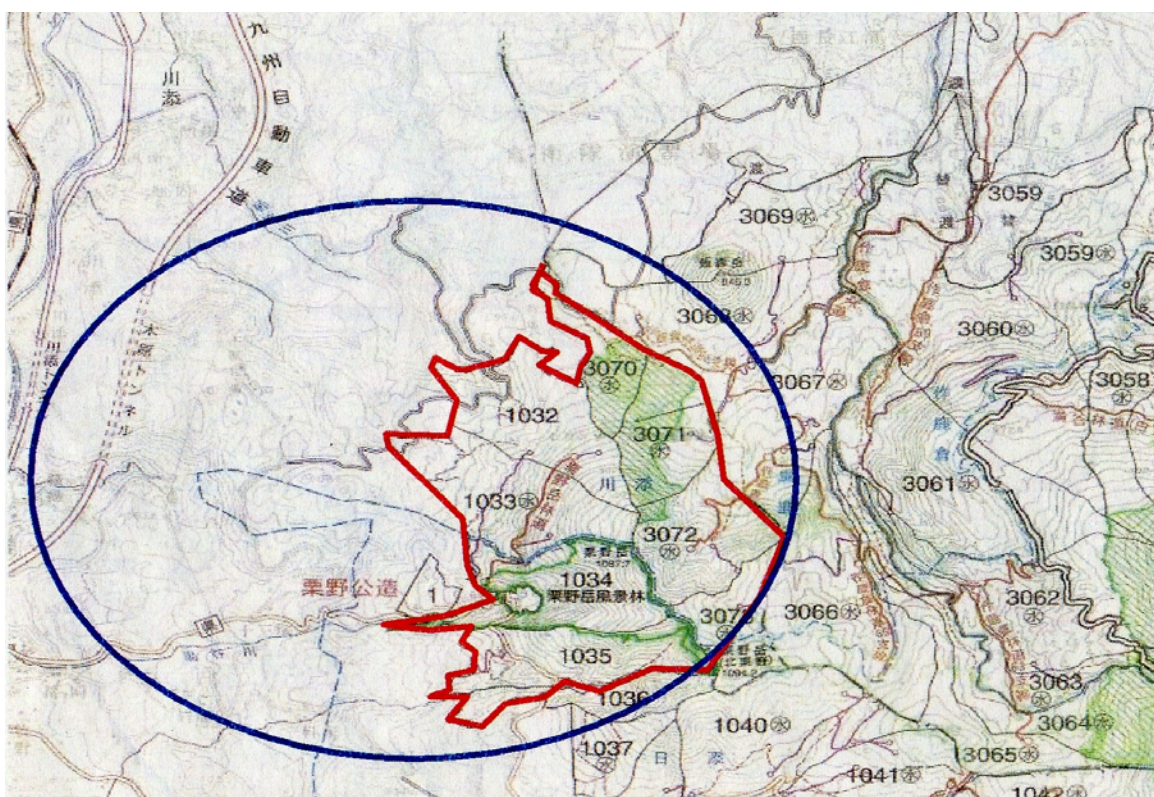


図 1 九州における対象地域の位置

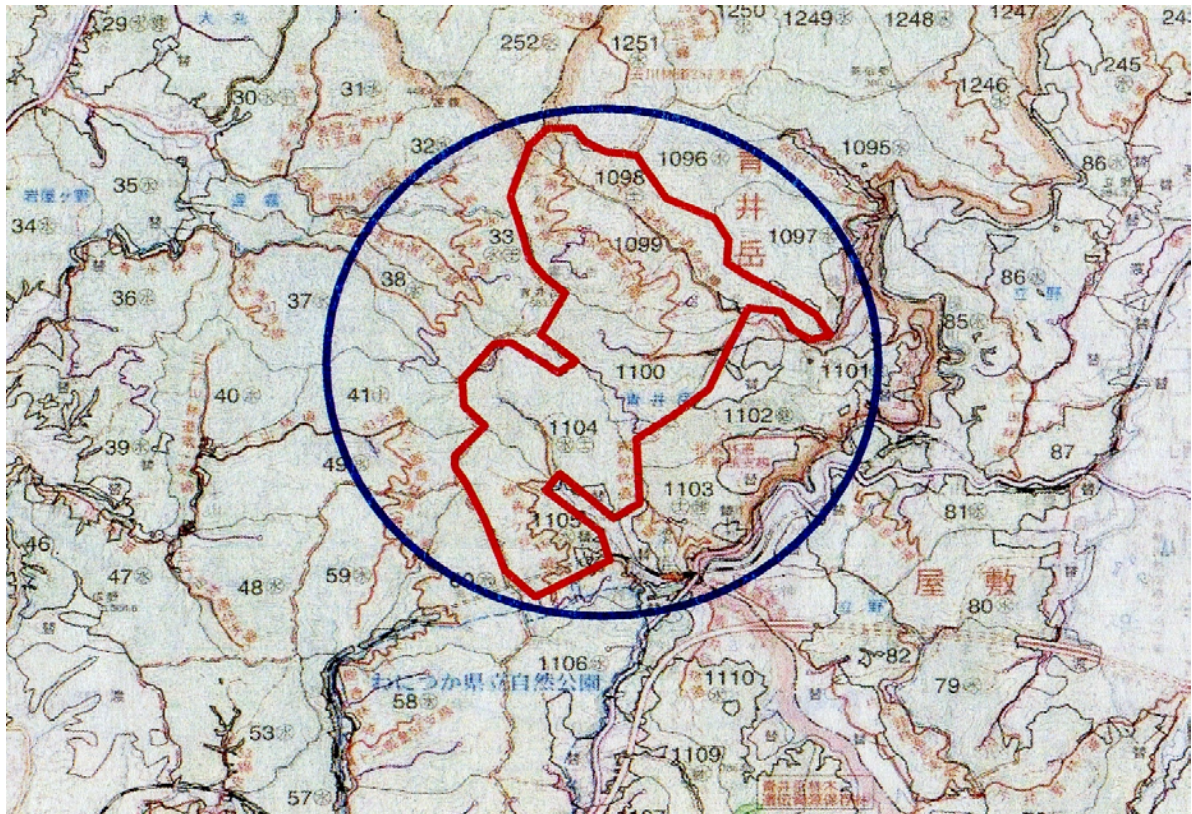


宮崎森林管理署都城支署管内
霧島山地域（西岳地区）



鹿児島森林管理署管内
霧島山地域（上床地区）

図 2-1 対象地域及び地区



宮崎森林管理署都城支署管内
青井岳地域



熊本南部森林管理署管内
白髪岳地域

図 2-2 対象地域及び地区



大分西部森林管理署管内
大分西部地域

図 2-3 対象地域及び地区

1.4 調査項目

調査項目は表 1 に示すとおりである。項目の内、現地調査及びヒアリング調査については実施地域を表 2 に示す。

表 1 調査項目一覧

調査項目			概要
大区分	中区分	小区分	
現地調査	シカの生息状況等調査	生息状況調査	シカの生息状況を把握する。 糞粒調査 スポットライトカウント法 植生調査
		移動状況等調査	シカの移動状況を把握する。 GPS 首輪の回収(平成 22 年度装着分) シカの捕獲、GPS 首輪装着 GPS 首輪からデータ取得
	シカの捕獲手法の検討	シカ捕獲手法の検討	様々な捕獲手法について実施・効果を検証する。 実験箇所の選定・給餌 捕獲手法の設置 捕獲試験 シカの反応をビデオやカメラで確認・分析 誘引用餌の検討
	その他	シカの個体情報の収集	捕獲したシカの栄養状況や妊娠の有無等の把握 ・30 頭以上
ヒアリング調査		狩猟実態調査	狩猟の実施期間や範囲等を把握する
とりまとめ		生息密度分布図作成	調査の結果をとりまとめる。 ・図表として整理 ・分析・考察 ・今後の計画策定 ・課題の整理 等
		行動パターン等のとりまとめ	
		自動カメラの撮影映像のとりまとめ	
		捕獲マニュアル(案)の作成	
		全体の調査実施計画等の策定	
		業務報告書の作成	
委員会等		検討委員会の開催	検討委員から調査方法や課題等の助言を聴取する。 ・業務開始時・とりまとめ時の 2 回
		シンポジウムの開催	シカ被害の現状と今後の課題をテーマに開催 ・シカが及ぼす農林業や生態系への影響 ・保護管理における有効な方策等

表 2 各調査の実施地域

調査項目 (小区分)	霧島山地域		青井岳 地域	白髪岳 地域	大分西 部地域	備考
	上床 地区	西岳 地区				
生息状況調査	、	、	～ 全て			生息密度(糞粒)調査 スポットライトカウント法 植生調査
移動状況等調査	○	○	○	○	○	
シカ捕獲手法の検討	○	○				
シカの個体情報の収集	○	○				他の地域でも捕殺せずに得 られるデータは取得
狩猟実態調査	○	○				

1.5 業務フロー

業務フローは図 3 のとおりである。

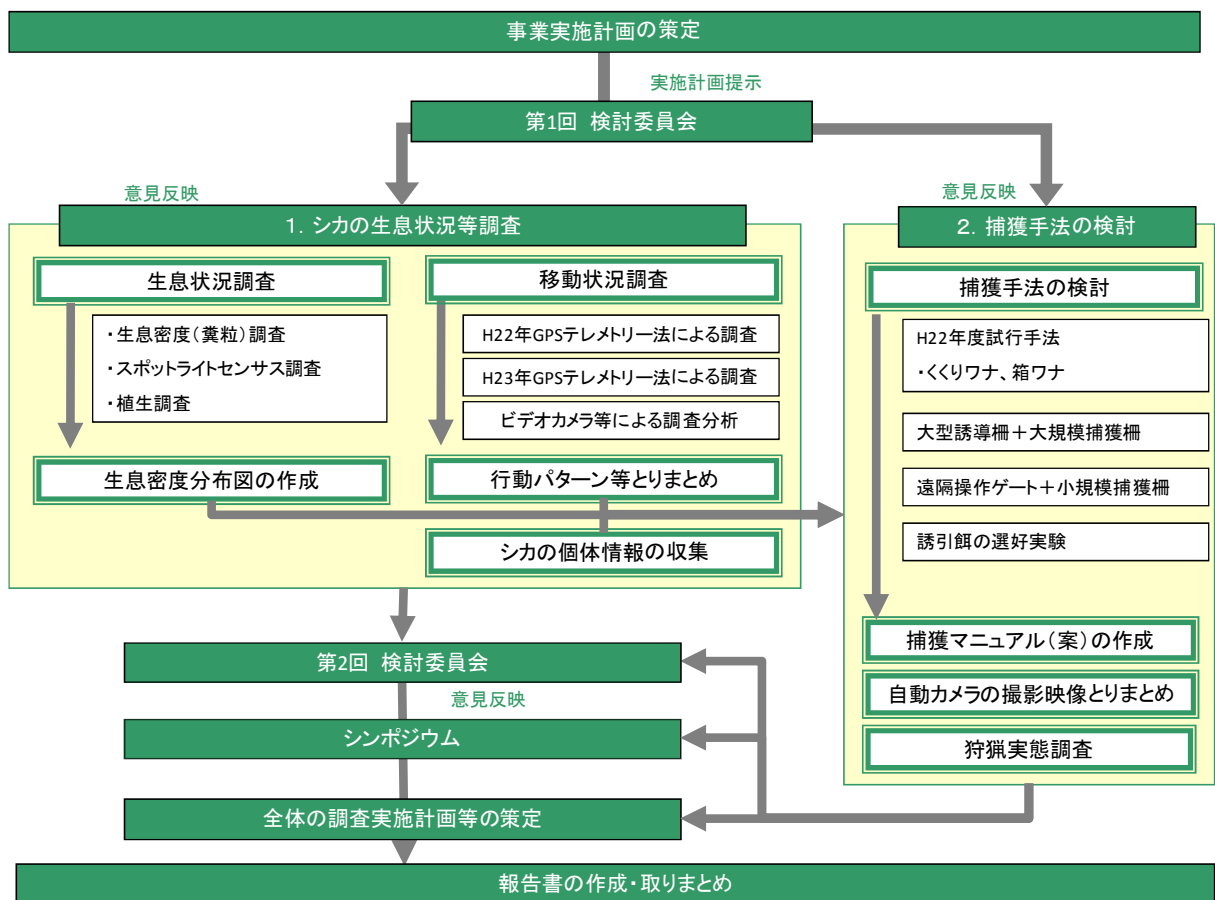


図 3 業務フロー